

執筆担当	所在地	畜種	キーワード
茨城牧場 業務課	茨城県 筑西市	豚	野生動物対策、豚熱対策、監視カメラ、侵入防止柵の設置

茨城牧場における野生動物侵入防止対策の取組について

～監視カメラによる侵入確認を受けての第3柵の設置～

家畜改良センター茨城牧場は、茨城県県西地域の筑西市にあり、田園地帯に囲まれた台地上の平坦地に位置し豚の改良を担当しています。今のところ牧場周辺での野生イノシシの目撃情報や出没形跡はありませんが、県内各地で多数の豚熱陽性イノシシが確認されており、豚熱の侵入防止が重要な課題の一つとなっています。

当场では、周囲との仕切りとして、外周フェンス(高さ 1.2m、全長約 2,500m)と内周フェンス(高さ 2m、全長 2,000m)の2重のフェンスを設置しています。また、フェンスとフェンスの間は、サブエリアとして一定の幅を持たせ、豚舎区域(衛生管理区域)が直接場外に接しないよう、緩衝区域としています。(参考：[茨城牧場の防疫体制：SPF 管理](#))。

フェンスについては、穴や破損が生じないように定期的に点検や補修を行っています。外周フェンスと内周フェンスにより、シカやイノシシといった野生動物の侵入を防ぐ構造になっているとともに、外周フェンスの一部と内周フェンスにはケイカル板等を地中に埋め込み、穴を掘って侵入する中小動物を防ぐようにしています。しかし、登ることが得意であったり、フェンスの目合をすり抜けるような中小動物の侵入を完全に防ぐ仕様ではないため、監視カメラによる場内の野生動物調査では、夜中にタヌキ、ネコ、アライグマやハクビシンがフェンスを乗り越え場内に侵入する姿が確認されています。このため、これら中小の野生動物を介して、豚熱をはじめとする豚の伝染性
疾病の病原体が侵入するおそれがあるとして、対策を講じました。

なお、当场では野生動物の侵入確認に監視カメラを使用していますが、今は用途に合わせた様々なタイプの監視カメラが数万円から購入出来ますので、比較的導入しやすいものと思われます。



監視カメラの設置状況



監視カメラで撮影されたタヌキ

はじめに、現在設置している外周・内周フェンスの更なる強化を考えましたが、対象範囲が広く、コストパフォーマンスの観点からも適当でないと思料されました。そこで、特に豚熱の感染リスクの高い哺乳豚や離乳豚が飼養されている豚舎の対策を最優先とし、ここへの野生動物侵入防止を強化することとして、当該豚舎周囲に第3の柵を設置しました。

第3の柵の設置は、分娩豚舎と子豚豚舎の2棟を対象にしました。

2重のフェンスを突破した中小の野生動物を防除する為という事で、専門の鳥獣害対策資材業者に相談し、今回はコストパフォーマンスも良好であった、トタン併用電気柵を採用しました。全長約 240m(分娩豚舎)と 210m(子豚豚舎)のトタン併用電気柵で、中小の野生動物の侵入防止に有効とされる高さ 80 cmの波トタン板と、さらに登ることが得意な動物の乗り越えを防ぐ為に、その上部に 10 cm間隔で 2 本のワイヤーを張った構造となっており、豚舎から3～5m外側の外周に、地面と隙間が無いように設置しています。

今回設置した電気柵は、日中ソーラーパワーでバッテリーに充電し、夜間に通電して野生動物がフェンスを乗り越えるのを防ぎます。設置費用は、材料費・工事費を含め、2棟で合計412万5千円(材料費約294万7千円、工事費・諸経費等約117万8千円)でした。

設置から約9か月が経過しましたが、同時に設置した監視カメラには、これまでのところ柵を乗り越えて侵入する野生動物は確認されていません。また、柵付近の地面の掘り返しや、柵内の野生動物の痕跡は見つかっておらず、一定の効果が得られていると考えています。

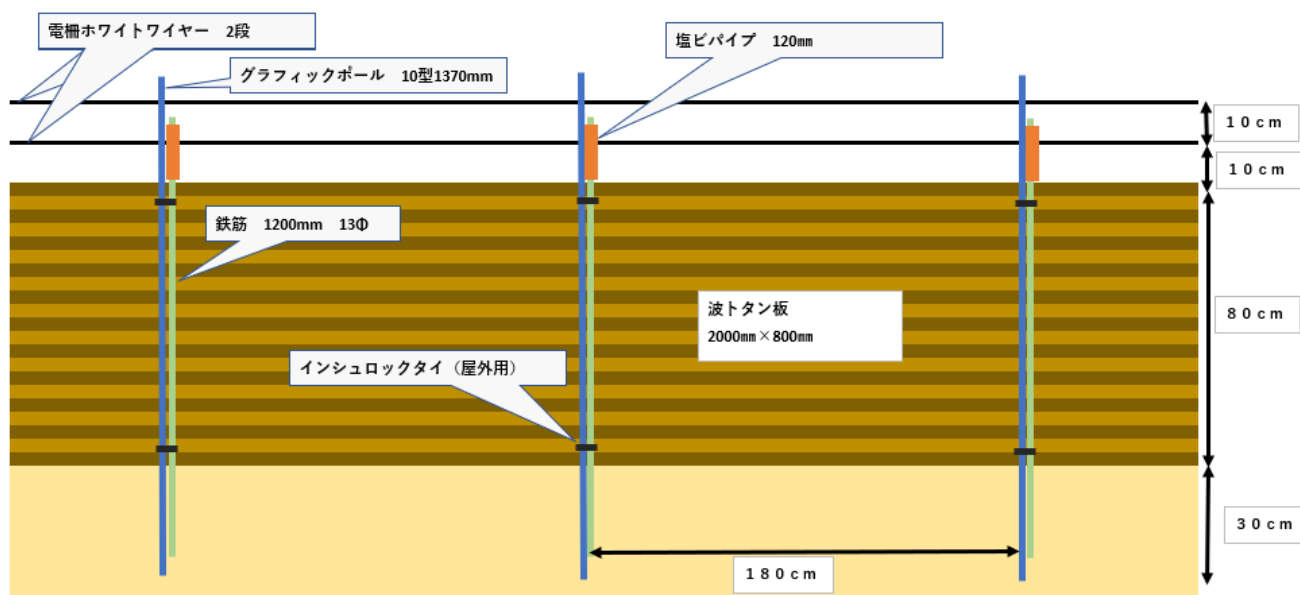
一口に野生動物対策といっても、牧場ごとに飼養家畜や立地条件、対象動物等が異なるため、必要となる対策も異なってくると思います。茨城牧場は東京ドーム5.8個分の広さであり、その広い場内を既存の2重のフェンス等により野生動物対策を行っておりますが、中小野生動物の侵入が確認されました。「設置しているから」と安心して、監視と改善を継続していくことが重要と考えます。今回紹介させていただきました情報が、少しでも皆様のお力になれば幸いです。



子豚豚舎のフェンス設置状況



ソーラーパネルと電気柵(ガラガー S60x)



トタン併用電気柵の仕様

(以上)